公共施設の集約化と複合化
～持続可能なまちづくり～

石川県七尾市
総務部長 岡野 崇
公共施設の集約化と複合化

1. 七尾市について
2. 七尾市公共施設等総合管理計画
3. 中島地区について
4. 旧中島町庁舎への施設の集約・複合化
5. 集約・複合化にあたっての課題
6. 集約・複合化の推進に向けて
1. 七尾市について

■平成16年10月に、七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町が合併し、新七尾市が誕生。

■能登半島の中央に位置し、北は穴水町、西は志賀町、南は中能登町と富山県氷見市に接する。

■主な観光名所
  国指定史跡七尾城跡（日本100名城、日本5大山城）
  和倉温泉（開湯1200年、平成27年度入込客数94万人）
  能登食祭市場（能登の祭・食が揃う）

■人口の推移（国勢調査）
  平成17年度 61,871人
  平成22年度 57,900人（前回比▲6.4％）
  平成27年度 55,348人（前回比▲4.4％）【速報値】

■面積 318.32平方キロメートル（H27.10現在）
総人口 出典: 昭和60年~平成22年 国勢調査
推計値 出典: 平成27年~47年 国立社会保障・人口問題研究所『日本の都道府県別将来推計人口』（平成25年3月推計）
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>H21年度</th>
<th>H22年度</th>
<th>H23年度</th>
<th>H24年度</th>
<th>H25年度</th>
<th>H26年度</th>
<th>H27年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>経常収支比率</td>
<td>94.5</td>
<td>90.9</td>
<td>92.7</td>
<td>93.4</td>
<td>94.0</td>
<td>96.7</td>
<td>93.5</td>
</tr>
<tr>
<td>財政力指数</td>
<td>0.508</td>
<td>0.477</td>
<td>0.456</td>
<td>0.455</td>
<td>0.449</td>
<td>0.439</td>
<td>0.433</td>
</tr>
<tr>
<td>(3か年平均)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>実質公債費比率</td>
<td>20.2</td>
<td>18.9</td>
<td>17.8</td>
<td>16.4</td>
<td>15.6</td>
<td>15.2</td>
<td>15.4</td>
</tr>
<tr>
<td>(3か年平均)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>将来負担比率</td>
<td>194.9</td>
<td>180.8</td>
<td>169.6</td>
<td>141.0</td>
<td>122.1</td>
<td>113.0</td>
<td>101.9</td>
</tr>
</tbody>
</table>

①経常収支比率：財政構造の弾力性を示す指数。経常一般財源総額（収入）に対する経常経費に充当された一般財源の比率。  
②財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数。数値が高いほど、自主財源の割合が高く財政状況に余裕があるとされる。  
③実質公債費比率：市全体の会計に加え、一部事務組合や地方債の返済額も含めたものの割合  
④将来負担比率：市全体の会計に加え、一部事務組合や第三セクターも含めた将来負担
2. 七尾市公共施設等総合管理計画

財政負担の軽減・平準化及び公共施設の適正配置を目的とし、平成27年11月に『七尾市公共施設等総合管理計画』を策定。

≪現状≫ 621施設、459,708㎡（延床面積）

【人口】今後40年間で総人口が35%減少及び少子高齢化の進行
【財政】地方交付税の減少と人口減少等に伴う地方税の減少
高齢化等に伴う福祉関係経費の増加
【施設】10年後には、築30年以上の施設が62%
市民1人あたりの公共施設保有面積は全国平均の2倍以上
【費用】今後40年間の更新費用（試算）は、年間平均で40億円

下記に施設の見直しの重要な事項を掲載

● 施設運営の抜本的見直し
● 優先順位を定め、集約化や複合化を推進
● 継続利用施設は、長寿命化を計画的に実施
● 遊休施設の利活用や有償貸付・売却など積極的な運用
● 老朽施設は、安全・安心の確保のため取壊しを推進

≪目標≫ 今後15年間で公共建築物（床面積）を20%削減
3. 中島地区について

■七尾市の北部に位置し、統合した旧町の中で最も人口が多い地域。

■主な集客施設
能登演劇堂（名誉市民仲代達矢氏が監修）
国民宿舎能登小牧台（宿泊施設）
猿田彦温泉いやしの湯（温泉施設）ほか

■人口の推移（国勢調査）
平成17年度 6,892人
平成22年度 6,335人（前回比▲8.1%）
平成27年度 5,821人（前回比▲8.1%）（当市独自算出）

■中島地区における公共施設数
小学校 1校、中学校 1校、保育園 1園
公民館 6館、体育館 1館、武道館 1館
文化ホール 1館、宿泊施設 1館、温泉施設 1館
### 4. 旧中島町庁舎への施設の集約・複合化

#### (1) 中島地区公共施設の利用状況

中島地区の総人口の減少に伴い、公共施設利用者も減少が続く。また、施設の老朽化も進んでおり、更新時期を迎えている。

<table>
<thead>
<tr>
<th>施設名</th>
<th>竣工</th>
<th>面積(㎡)</th>
<th>指標</th>
<th>平成17年度</th>
<th>平成22年度</th>
<th>平成27年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>旧中島町庁舎</td>
<td>H 1</td>
<td>4,059</td>
<td>証明書発行件数</td>
<td>7,986</td>
<td>4,951</td>
<td>4,318</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>住民窓口取扱件数(戸籍・住民異動手続)</td>
<td>403</td>
<td>355</td>
<td>263</td>
</tr>
<tr>
<td>中島中学校</td>
<td>S38</td>
<td>6,038</td>
<td>生徒数</td>
<td>191</td>
<td>177</td>
<td>140</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>(うち体育館1,880)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>中島体育館</td>
<td>S58</td>
<td>3,279</td>
<td>利用者数</td>
<td>37,348</td>
<td>31,150</td>
<td>31,862</td>
</tr>
<tr>
<td>中島武道館  ※1</td>
<td>S51</td>
<td>550</td>
<td>利用者数</td>
<td>1,255</td>
<td>3,776</td>
<td>1,068</td>
</tr>
<tr>
<td>中島公民館</td>
<td>S43</td>
<td>748</td>
<td>地区人口</td>
<td>1,064</td>
<td>1,022</td>
<td>945</td>
</tr>
<tr>
<td>中島文化センター</td>
<td>H 7</td>
<td>5,103</td>
<td>延べ利用者数</td>
<td>25,993</td>
<td>24,059</td>
<td>34,734</td>
</tr>
<tr>
<td>(能登演劇堂)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>中島図書館  ※2</td>
<td>H 7</td>
<td>556</td>
<td>延べ利用者数</td>
<td>26,077</td>
<td>18,811</td>
<td>20,140</td>
</tr>
<tr>
<td>(中島文化センター内)</td>
<td></td>
<td></td>
<td>貸出冊数</td>
<td>53,059</td>
<td>48,495</td>
<td>50,119</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【※1】中島武道館：平成19年度から地域の柔道・剣道教室が開講されていたが、平成25年度に会員の減少により閉講。
【※2】中島図書館：面積は中島文化センター5,659㎡を分割。利用実績は、園児を招待するなど、利用者減少に対する取組みを強化。
（2）中島地区中心部の公共施設配置状況

中島中学校
中島体育館
中島公民館
中島武道館
中島文化センター（能登演劇堂）
中島図書館
旧中島町庁舎

出典：Google
（3）事業概要

～公共施設最適化事業債を活用した先進事例について～

庁舎との複合化【石川県七尾市】

庁舎の一部を活用した複合化
- 老朽化が激しい公民館、中学校の施設改善を図ること、また、耐震化されていながらも空きスペースが多い市民センター（行政庁舎）の有効活用を図るため、施設の複合化を実施。
- 図書館については、市民からの要望がある文化展示施設に、新設するのではなく図書館を転用する形で整備。

複合化
延床面積を約900㎡（1/2）縮減（※）

最適化事業債の対象

※ 最適化債の対象外施設も含めると延床面積を約4,900㎡（1/2）縮減
【出典】総務省ホームページ
中学校に附随する体育館
・老朽化対策として、中学校体育館と武道館の集約化にあたり、近隣の体育館と連携することで大幅にダウンサイジングした新たな学校体育館として整備。また、地域に開放された施設としても活用。

除却
学校体育館
集約化
延床面積を約1,800㎡（3/4）縮減
新学校体育館
最適化事業債の対象
新築
除却
武道館
（4）集約・複合化による旧中島町庁舎の利用状況

【旧庁舎棟】（校舎棟）

3階
行政（未利用）

2階
大学研究室 経済団体事務室

1階
行政（未利用） 地域協議会事務所 行政 玄関 行政（貸し館）

【旧庁舎駐車場】（体育館棟）

行政（駐車場）

集約・複合化

3階
中学校

2階
中学校

1階
図書館 公民館等 行政 玄関 中学校

中学校（体育館）
5. 集約・複合化にあたっての課題

（1）地域住民・議会の理解
公共施設は、当該地域のシンボル的な施設であり、閉鎖に対する地域住民や議会に理解されにくい。

（2）施設の処分にかかる国庫補助金の納付
未利用となる施設を含め、国の補助事業により整備した施設の処分（転用、譲渡、除却）にあたり、その承認を得るために国庫補助金の納付条件が付される場合がある。そのため、集約・複合化する施設を変更しているのが現状である。

（3）未利用となる施設
地域の特性から、未利用となる建物は、行政以外の利用は考えにくく、また、解体についても、多額の資金を要することから、すぐに行えないのが現状である。結果として、施設を維持することとなり、点検委託業務など維持管理費を負担せざるを得ない状況になることも少なくない。

（4）施設整備の財源
集約・複合化にあたり、施設の改修等が必要となることも多く、財政状況が厳しい地方自治体にとっては、その財源の捻出が大変困難な状況である。
6. 集約・複合化の推進に向けて

（1）国庫補助金納付条件の緩和

未利用となる施設を含め、国の補助事業により整備した施設について、集約化や複合化を理由として処分（転用・譲渡・除却）する場合に、国庫補助金の納付条件が緩和されることで、地域が理想とする集約・複合化事業がさらに進むと考える。

（2）地方債における解体費の取扱い

未利用となる施設は、非耐震化施設や老朽施設であり、解体撤去が望ましい。しかし、その費用は、過疎対策事業債（ソフト事業）の対象であるものの、非過疎地域においては、交付税措置がなされない起債となっている。

ついては、集約化や複合化により未利用となる施設の解体費に対し、交付税措置のある地方債の創設、または公共施設最適化事業債の起債対象とすることが、集約・複合化をさらに加速させることにつながると考える。

（3）公共施設最適化事業債の延長

各自治体では、公共施設等総合管理計画を策定し、施設の適正配置を進めていが、公共施設最適化事業債は平成27年度から3カ年度という期限付きである。

今後本格的に展開される集約・複合化事業にとって、公共施設最適化事業債は必要不可欠な地方債である。この事業債の期限延長は、自治体の取組みの強い後押しになると考える。
ご静聴ありがとうございました。

和倉温泉と牡蠣棚 http://www.wakura.or.jp/

すし王国能登七尾 http://www.su-si.net/

能登のキリコ祭り（石崎奉燈祭）

国指定史跡 七尾城跡
【七尾市のご紹介】

開湯1200年を誇る和倉温泉

【由来】和倉に暮らしていた漁師夫婦が、湯気立つ海で
白鷺が身を癒しているのを見て、『湯の湧き出づる浦』
＝ 涌浦（わくうら⇒わくら）を発見。
・能登観光の拠点として、年間約94万人の入込客数。（H27年）
・第41回「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で、『加賀屋』が36年連続総合第1位。

七尾城跡（国指定史跡）

・「日本百名城」「日本五大山城」
・七尾湾を一望する城山（標高約300m）を中心に、
  七つの尾根に曲輪（くるわ）を配した大規模な山城。
  16世紀前半 能登畠山氏が築城
  1577年 上杉謙信の侵攻で落城
  1581年 織田信長から能登一国を与えられた前田利家が入城
七尾ゆかりの著名人

・長谷川等伯　安土桃山時代の絵師: 狩野派と並ぶ絵師
代表作: 国宝『松林図屏風』、国宝『楓図』
・仲代 達矢 七尾市名誉市民・俳優・劇団無名塾主宰
「能登演劇堂」建設時に監修。
・辻口 博啓 パティシエ: 洋菓子の世界大会で優勝多数
・角中 勝也 プロ野球選手: 千葉ロッテマリーンズ
・松平兄弟 卓球選手:
　賢二、健太（日本代表選手）、志穂
・宮下 英樹 漫画家: 『センゴク』の作者
・乃木坂太郎 漫画家: 『医龍』の作者
・輪島 大士 大相撲: 元横綱
・輝 大士 大相撲: 幕内（現役力士）

長谷川等伯像（JR七尾駅前）
能登演劇堂（借景を活かした舞台）
第6回ロングラン公演（無名塾）
2017年10月14日〜11月12日
『肝っ玉おっ母と子供たち』